

5/3 講演会 & ギャラリートークでは、参加者の方から多くの感想が寄せられました。その中から、ここでは 20 代の学生からいただいた感想をご紹介します。
(掲載許可をいただいた感想に限ります)

講演会 & ギャラリートーク

今年は終戦から 70 年が経過した年です。節月の年にもう一度、戦争のことを見つめ直すべきだと思いました。

(京都府 20 代 学生)

今の安倍政権が改めて怖いと思った。今、日本だけではなく、ヨーロッパでも移民排斥運動が広がるなど、世界全体が平和から遠のいているように思えてしまう。このタイミングで私たち戦後の世代が次世代だけではなく、今の世代の中でも日本の加害行為、当時の政府と天皇制について共有していくことの重大さを改めて感じた。

(京都府 20 代 学生)

実際に写真を撮った方から文字ではなく、声と表情を通して話を聞けるというのは、とてもいい経験だった。話を聞くと被写体の方と撮影者山本さんとの両方の感情が伝わってくるようだった。

(京都府 20 代 学生)

山本氏の写真には真にせまるものがあり、“戦後とは何か”ということを改めて考えさせられた。

(京都府 20 代 学生)

友人が三月下旬に福島へ行き、山本さんに会ったようで、この写真展を勧めていただきました。そうでなければ知らなかったし、来ていなかったと思います。その友人の彼女は原発問題に取り組んでいましたが、ひとつの問題に取り組むと、国家が関わる様々な問題に到りつくようです。今の原発再稼働など様々な問題などを聞き国は何も変わっていないと思いますが、人は学んできていると信じたいです。

(京都府 20 代 学生)